

# 「教育の質向上プロジェクト」 基軸科目「現代に生きる」における授業内外の学修を促す専用ホームページの活用

人間学部 宮嶋秀光 加茂省三 安藤喜代美 西村善矢 加藤昌弘 櫻井龍彦

はじめに  
本事業は、人間学部がこの3年間にわたって取り組んできた教養教育の基軸科目「現代に生きる」の特質をいっそう充実させることを目的としている。この授業の最大の特質は、**学生グループによる討論やレポートの共同作成**である。それらの充実のためには、**授業外の学修機会**を十分に確保する必要がある。本プロジェクトは、そうした授業外の学修を支援する方策として、「現代に生きる」**専用ホームページ**を整備するものである。

### 1. 授業の目標＝「広い視野に立って、物事の公平な判断」※ができる**市民の育成** 方法＝**現代的な課題**に対して、それらの**解決**を目指す学修

授業の全体テーマ：「**人口問題**」  
15回の授業を**3ユニット**で構成  
第1回：ガイダンス  
第2～5回（**第1ユニット**）のテーマ  
「**人口動態の過去と未来**」  
第6～10回（**第2ユニット**）のテーマ 例え  
「**自然環境の中で生きる人間**」  
第11～15回（**第3ユニット**）のテーマ  
「**食料・エネルギーの需給の見通しと将来の課題**」

**第2ユニット**（毎回8人の教員が参加）  
2-1 A先生（農学部）  
類人猿から人間へ — 人類の誕生と適応放散 —  
2-2 B先生（理工学部）  
気候変動の科学と価値観 — 温暖化問題 —  
2-3 C先生（理工学部）  
開発と生態系保全  
2-4 D先生（人間学部）  
グループ単位の共同的な自主学習  
2-5 ユニット担当および運営教員全員  
班レポートへのコメントと全体討論

※名城大学メディアラボリシー

### 2. 各回の授業進行

- 1) 担当教員が専門的な立場から現代的な問題を取りあげ、その**背景や基本知識を解説**  
(おおむね45分)
- 2) 担当教員が**選択的な立場決定を迫る問題**を提起  
(例) 出生数の操作をめざす国の政策に賛成or反対？
- 3) 責任者を決めて、**グループ(6名)ごとの討論**  
(おおむね20分)
- 4) **グループの見解の発表(挙手とiPad)**と全体討論  
(おおむね20分)

➡ 授業終了後、グループ単位のレポート作成

### 3. 受講者は授業内のグループ討論をどう受け止めたか？(アンケートより)

Q. グループ討論は有益だったか？

Q. 有益と思った理由

Q. 有益でなかった理由

8割前後の学生が、討論の有益性を認めているが、十分な話し合いができていないケースも依然として多い。

授業外でも多様な討論の方法を準備する必要性 ➡ 独自のホームページ、特に「現代に生きる」トークの開設

### 4. 「現代に生きる」ホームページの概要

トップページ

ギャラリー

- 授業用の資料の掲載
- 授業終了後の継続的な情報提供
- 学内外への授業の紹介
- ◎ **グループ内の授業外討論の支援**

➡ 「現代に生きる」トークの開設

### 「現代に生きる」トーク活用の流れ

授業内のグループ討論  
そのメモをiPadに記入

➡ 「現代に生きる」トークにアップして共有する

➡ 授業後「トーク」でメンバー6人の意見交換が始まる

➡ メンバーから最初の意見が書き込まれる

➡ 全メンバーメールで通知

➡ 通知メール

➡ メンバーから次々と意見がよせられ、それを踏まえて共同制作レポートの下書きがアップされる

➡ ファイルの表示画面

➡ 下書きに関する感想、指摘、アドバイス等が書き込まれ、それらの議論を踏まえて下書きの修正版がアップされる

➡ 議論は一筋縄でいかずさらに意見交換が展開される

➡ これまでの意見を踏まえ、レポートの最終案をアップする

➡ メンバーの賛同を得て下書きは完成

➡ 共同レポートの清書と提出

### 今後の課題

「現代に生きる」トークの本格導入は、本年度(2017年度)の第3ユニットからであった。それも有り、本年度については、受講者のあいだで必ずしも十分に定着し、期待通りに活用されたとはいえない。従って、来年度以降、本事業で開設したホームページの諸機能をいっそう多角的に活用するとともに、それらの諸機能と連動させながら、特に「現代に生きる」トークを受講者の間で、授業外学修を支える有力な手段として定着していくことが課題である。

専用ホームページアドレス <http://wwwhum.meijo-u.ac.jp/gendai/>